

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173300441		
法人名	株式会社 いづみ野		
事業所名	グループホームいづみ野		
所在地	埼玉県東松山市東平502-1		
自己評価作成日	H26年10月10日	評価結果市町村受理日	平成27年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成26年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症という生活のしづらさがあっても、本人らしく安心して生活できる事を大切にしています。日々個々の状況を把握し、その人に寄り添い変化に対応した支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・管理者や職員は、日頃の利用者同士のちょっとした会話にも耳を傾けられ、利用者の思いを汲み取ることに努められている。また、職員の育成として研修に力を入れたことで、自分で考える力や気づきの目が養われ、事業所の運営や利用者のケアに反映され良い結果をもたらししている。
 ・ご家族のアンケートでも、「顔なじみの職員の対応で、安心して生活を送っています」、「入退院の繰り返しでも大変気にかけていただき、こちらの要望等を実行してくださいます」などのコメントが寄せられ、事業所への高い信頼と安心してお任せしている様子が伺える。
 ・目標達成計画の達成状況については、地域住民の見学のもと避難訓練が実施され、避難経路の整備も適宜見直しをされていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人が人として人を支援する」を理念とし、見やすい場所に掲げている。事務所・宿直室には理念の具体化の内容を掲げ、職員会議等で話し合い、尊厳をもって利用者へ接するよう実践に努めている。	「理念の具体化」を掲示し、日々感謝の気持ちを持ちながら、「人」としてのつながりを大切にした温かなケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に採れたての野菜を頂いたり、障害者施設との交流がある。また、小学校の職業体験やボランティアの受け入れを行っている。大雪の災害時には地域の方と共に助け合い利用者が暮らし続けられる良好な関係を築いている。	傾聴ボランティアや音楽療法、小学校の職業体験の受け入れ、また、地域や施設から花や果物、野菜をいただくなど、地域との交流が深められている。台風の時には民生委員の方が見に来てくださるなど地域に根付いた付き合いが継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	警察署やきらめき大学等で認知症についてお話する機会を頂いている。また、運営推進会議等で地域の方々にむけて認知症についてお話し、理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの抱えている問題や取り組み状況を報告し、地域の方からも活動状況や情報交換を行っている。そこでの意見を職員会議で話し合い、サービス向上に活かす取り組みを行っている。	防災訓練や家族交流会などを兼ねて開催され、市の職員、町内会長、民生委員、地域住民、家族や利用者など多数の参加を得て、事業所の取り組み状況や地域の情報などの意見交換が行われ、運営に活かされている。	定期的な開催には至っていない。今後は、運動会や節分、食事会など行事と一緒にするなど工夫した取り組みにより、回数が増え、より多くサービス向上に活かされることに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の管理者会議をはじめ、市内GH懇親会や運営推進会議への出席をお願いしている。利用者の実情を知って頂く為に相談・連絡を密にし、協力関係を築いている。	運営推進会議には市職員の参加もいただくなど、事業所の実情を説明されている。また、成年後見制度や対応の難しい利用者の相談では助言をいただくなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行ってはいけないことを代表者・全職員が理解している。会議等で拘束の意味を正しく捉える為に話し合いを行っている。ご家族や地域の方と連携して開設当初から施錠しないケアの取り組みを行っている。	身体拘束や虐待防止の研修に参加され、不適切ケアについて職員全員で理解を深められている。安易に薬に頼らず、気が済むまで散歩に付添われ、利用者の気持ちを汲み取られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は地域包括支援センター主催の「高齢者虐待防止」の研修に参加し、その内容を職員会議にて報告・勉強会を行い、虐待が見過ごされることがないように日頃から防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は地域福祉権利擁護事業や、市民後見人制度の研修を受けており、利用者の安定した生活を考慮し諸関係者(本人・家族・地域包括・社協・司法書士)の方と連携し活用支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、解約時は職員2名で対応することで説明漏れを防ぎ、ご家族の不安・疑問等的確に答えられるよう配慮している。改定時も全体で説明会を実施したり、個別に実施する等説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、普段のコミュニケーションにおいて様々な意見・要望を頂き、即対応しています。ご家族には面会時・カンファレンス時において意見・要望をお聞きしています。	家族からは、ベッドの位置を自宅と同じ向きにして欲しい、便秘解消のためバナナを食べさせて欲しいなど具体的な意見をいただき、利用者の対応に活かされている。また、利用者へは、職員から声かけを行い要望を聞き取られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員会議等で日頃疑問に思っていることや提案等を聞き、行事や毎日のケアに反映している。また、個々の職員とのコミュニケーションを取るよう努め、代表者は年1回個別面談を行い意見や提案を聞く機会を設け反映している。	定期的な研修で、職員は自分で考える姿勢が身につく、意見・要望を積極的に提案されている。家庭菜園での野菜作りや、利用者への接し方など具体化され、事業所運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は随時代表者と連絡を取り、勤務表の提出や職員状況、業務の内容等報告している。職員の夜勤の負担を軽減させる為に、夜勤1、夜勤2の勤務形態を新しく設け時間帯を短縮させ夜勤者の負担減を試みている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の個々の目標を実現させる為に、各自の立場や経験に基づき研修を受ける機会を確保している。また新人への研修にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回程、地域の事業所との懇親会を行い、市の職員の方にも参加して頂き情報の交換を行っている。地域合同の研修会も計画され参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用については、事前に本人・ご家族と面接して本人の状態を把握している。また、傾聴や見守りを通してコミュニケーションを図り、安心できるような関わりを工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な気持ちを受け止め、面会時等コミュニケーションに努めています。本人の状況を伝え安心して頂き、要望等が出しやすい雰囲気を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時、ご本人の現状、家族の事情等、話を十分に聞き、必要なサービスの優先順位を見極めている。場合によっては、必要に応じて他のサービス機関に繋げることも検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りをしたり、洗濯物を畳んだり、本人のこれまでの知恵や知識を活かし、生活を楽しめるよう配慮する等尊重し、お互いに暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月本人の日常の様子を手紙でお知らせしている。ご本人との繋がりをより深めて頂けるよう行事への参加や毎月面会に来て頂くようお話しさせて頂き、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅願望の強い方が実家へ帰られたり、ご近所回りをしたり、その都度職員が付き添っている。また、日頃の会話から馴染みの関係を把握するように努めている。	通っていた小学校へ出かけた時、近所の人や知人の訪問、成長した孫が曾孫を連れて会いに来られている。また、電話や手紙でのやり取りなども行われ、交流が途絶えることがないように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームでの暮らしの中心となるリビングでは気の合う方と同席し、会話が出来るよう配慮している。レクリエーション時や行事等では、他の方とも関わり合えるよう職員が間に入り場を繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族が来所し現在の状況と話して頂きますし、時には手紙やハガキでのやりとりもあります。再度入居の希望があれば、受け入れるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりから情報をキャッチして、その方の意向を把握する。特に10時・3時のお茶時には職員は利用者とのコミュニケーションを深め、情報を上手く引き出し、今後の意向の把握に努めている。	足が冷たくて寝られないと訴える利用者には、足浴を取り入れ安眠に繋がったり、補聴器が聞こえにくい利用者には、定期的にお店の人が調整に来ることで不穏状態が解消されるなど、利用者の様子をよく観察し、気持ちを押し量られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族より情報を教えて頂き、本人に馴染みのある物、例えば歯磨き粉ひとつにしても昔からこだわりがあって、ずっと使用している製品であれば変えることなく継続して使用して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、記録、職員同士の情報交換を密にして、一人ひとりの生活パターンを把握している。その日によって心身状態は違ってくるため、その日に何が出来るか、何が必要かを把握し過ごし方を工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い職員全員でケアのあり方について情報を共有する。本人の意向や家族の要望を反映させ、より良い生活が継続出来るようケアプランを作成している。	「痛い、義歯があわない、目薬をつける」など日々の状況はメモし、職員全員に周知され、個々の利用者に合わせて介護計画が作成されている。医療関係者からも意見をいただき、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランは常に見やすい状態にし、毎日の記録もプランに沿って記録している。経過や気づきはすぐ書き込めるようにしてある為、変化がわかりやすい。またケアマネ等に情報共有できる関係性が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる新たなニーズについては対応に努め、ホーム内で可能な限り出来る適切な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の訪問、訪問美容、訪問歯科、福祉用具事業、音楽療法、傾聴ボランティア等の資源を利用しながら、暮らしを楽しめるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を聞き、入居以前のかかりつけ医に受診出来るよう、ご家族を協力している。	医療機関受診時には書面で情報を共有され、緊急時にはかかりつけ医から直接指示をいただくなど、適切な対応ができる体制が整えられている。歯科の往診時には義歯の調整や口腔ケアも実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変時は些細なことでも看護職へ連絡、相談している。指示を仰ぎ、適切な処置を行い、記録に留めている。看護職は早めに受診出来るように医療機関との連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関で、年に1回の健康診断、月2回の医師の回診があり、早期発見・早期治療に努めている。入院の際には、定期的に医師や看護師から連絡があり、現状をご家族にも伝えてもらっている。病院との関係性を今後も密に行っていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初より、重度化した場合を想定し話を伺っている。又、状況の変化がある場合はその都度話し合いを行い、事業所で出来る事を十分説明をしながら、方針を共有している。	利用者・家族の意向を確認し、医療関係者と相談しながら、最善の方法を検討されている。他の施設や病院の情報を提供するなど、時々の変化に合わせて話し合いが持たれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防による救命講習を受けており、また、受けていない職員は今年度講習を受けている。定期的にホーム内研修を行い、新しい知識があれば情報を共有して万が一に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間火災を想定した避難訓練を実施。うち1回は消防や地域の方達を招き、訓練の様子を見て頂きアドバイスを頂いたり、DVD等の教材で共に学習する等、地域との協力体制を構築している。	消防署の指導のもと、避難訓練が実施されている。地域住民も含めた緊急連絡網も作成され、優先順位や避難経路の確認も行われている。職員から、消火器使用時の注意点や持ち物などを明記したチェック表を掲示したらどうかと提案がされている。	避難経路が砂利道のため避難・誘導が遅れることが予想されます。今後も引き続き整備に向けた取り組みと、住民の方々の役割を定め、合同訓練が実施されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの違いを理解し、声かけは安心して頂けるフレーズを使用している。その方に合った言葉、仕草でプライドを傷つけないよう配慮している。	日頃から利用者の好きなことや落ち着ける場所を把握し、一人ひとりに目を配り、利用者の気持ちを傷つけないように接し、安心して過ごせるように支援されている。また、研修に参加され個人情報の取り扱いにも十分注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時や外出時の洋服選び、苦手な献立時の代替の希望、行事への参加等、希望に添うよう働きかけている。ホーム内で可能な限り自由に過ごして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設でのおおまかな生活リズムは決まっているが、個人のペースや体調に合わせて過ごして頂いている。リビングで新聞や広告・本を見たり、会話を楽しんだり、居室でTVをみたり、それぞれ暮らしやすいよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、二か月に1回、美容(ヘアカット)を受けて頂いている。起床時や入浴後、整容を行い、中には化粧水やクリームを使用される方もいます。その人らしい着こなしをされていた場合、職員はさりげなく褒めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく、安全に食事して頂ける様、穏やかな音楽を流し、誤嚥等の危険回避の為、職員も同席している。メニュー表をご覧頂き、次の食事が楽しみになる工夫や、可能な方には準備・片付けをお願いしている。	利用者の「お手伝いしたい」という気持ちを大切に、洗い物や食器拭きなどを手伝っていただいている。利用者の身体状態に応じた食事形態で、音楽や季節の花々を楽しみながら、ゆったりと食事ができる環境が整えられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	これまでの食事習慣をご家族に聞きながら、嗜好状況を把握し、一人ひとりに合った量や内容で支援している。食事時間も1時間とりゆっくり召し上がって頂いている。10時の休憩時には好みの飲み物で水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った食後の歯磨き・入れ歯の手入れを実施している。決まった曜日にポリドントでの洗浄を行っている。口腔ケアが必要な方には訪問歯科の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄のパターンを職員で共有することによって、排泄の自立にむけた支援を行っている。それにより、リハパンやパット等の使用量の軽減に努めている。	失禁や転倒の危険がある利用者も、時間を見ながらトイレ誘導を行ったり、センサーを活用するなどトイレでの排泄が可能になるなど自立に向けた支援が実践されている。また、水分や食事内容、マッサージなどでスムーズに排便ができるようにも努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事で食物繊維の多い物や乳製品を取り入れている。日中・夜間の水分補給をこまめに行い、毎朝のラジオ体操で体を動かす機会を取り入れたりしている。個別に腹部温シップやマッサージで排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	早めに入りたい方、後から入りたい方等順番を考慮して行っている。好みの湯温・洗体の仕方・シャワー浴・半身浴等、個々の好みに合わせた支援を行っている。拒否のある方にはタイミングを見計らって声かけしている。	脱衣所や浴室を十分に温め、温度差にも配慮され、ゆっくりと入浴ができるように支援されている。菖蒲湯やゆず湯などで季節を感じていただくこともあり、馴染みの職員との会話でリラックスした入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの疲労状態に応じ、午前・午後と自由に居室ベッドでの休息、ソファでの休息がとれるようにしている。室温をエアコンで調整し、室内で快適に休めるように支援している。就寝時間の遅い方は職員が付き添い対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関するファイルがあり、いつでも見られるようにしている。初めての薬が処方されれば、看護師から説明(目的・副作用・用法や用量について)を受けている為、全職員周知が徹底している。また、個人記録に服用時の変化を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌謡曲が好きな方には録画した歌謡コンサートや、のど自慢等見て頂いている。また、個人別に歌詞ファイルがあるので、好きな時に見て頂いている。今夏は野菜作りにも挑戦し、ナスやトマト等収穫を体験して頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は玄関を施錠せず自由に外出できる環境を整えている。全体では、年間行事に組み込み入居者の希望を考慮しながら外出を計画している。個々では、ご家族に協力して頂き、外出を支援している。	ドライブや花見など、外出の機会を多く持つように努められているが、利用者の重度化で、集団外出が難しくなっており、家族の協力で自宅に帰る、お墓参りに行くなどが実践されている。近所の散歩や部屋から季節の花を眺めることが、利用者の気分転換に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している利用者は家族との外出時、自由に使っている。また、ホームでもショッピング行事があり、好きな物が購入出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙を書く方はいないが要望があれば、支援していきたい。電話に関しては、好きな時に本人が自らかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはあまり刺激になるような物は置かず落ち着いた環境作りを心掛けている。廊下は歩行の妨げになる障害物を排除し危険がないよう注意している。室内には毎月届く季節の花を飾ったり、また、リビング越しに見える家庭菜園で季節感を取り入れている。	吹き抜けの高い天井は開放感があり、日当たりのよい室内は遮光のカーテンがかけられ、明るさや温度調整にも配慮されている。ソファやベンチが設置され一休みできる場所ができています。窓からは家庭菜園を眺めることができ、ゆっくり寛げる共用空間で利用者は落ち着いて過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはベンチを置き、一人でお茶を飲んだり外を眺めたり、また、リビングにあるソファで気の合った方と会話を楽しんだり気分転換出来る居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに使い慣れた物や好みの物を居室にて利用されたり飾ったりされている。家族の写真や位牌等思い思いに環境を作られている。	ベッドや家具も好みの位置に置かれ、個々の利用者が居心地よく過ごせるように設置されている。位牌や写真も飾られ、入り口には職員手作りのプレートが下げられ、温かな雰囲気を感じられる居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のドアにはネームプレートがほぼ目線の高さに掛けてあり、わかりやすく工夫されている。各居室内にトイレや洗面台がある為、気兼ねなく利用できる環境が整っている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームいづみ野

目標達成計画

作成日:平成 26年 12月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練において、これまで地域の皆様に避難訓練の様子を見て頂き、アドバイスを頂く等していましたが、実際に避難訓練に参加して頂くことはありませんでした。	避難訓練を地域の皆様にも、一緒に参加して頂くことで、避難訓練も、より質の高いものになると思いますので、地域の皆様にも避難誘導や消火訓練等、参加型の避難訓練にしたいと思います。	避難訓練の際に地域の皆様にも役割を決め、(避難された利用者様の安全の確保、利用者様の避難誘導等)参加して頂きます。また、地域の方がどのような形で参加された方がより力を発揮してもらえるか検討していきたいと思います。	24ヶ月
2	4	運営推進会議は今年度は2回の開催でした。職員や日程の調整が折り合わず、開催回数が減っていました。	運営推進会議を定期的に行いたいと考えています。(年6回を目標に)I。	年間計画を立て、ホーム内の行事を兼ねる等し、開催回数を増やしていきたいと思っています。	24ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。